

都市再生整備計画

ながさきえきしゅうへん
長崎駅周辺地区(第六回変更)

ながさきけん
長崎県

ながさきし
長崎市

令和4年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	長崎県	市町村名	長崎市	地区名	長崎駅周辺地区	面積	31	ha							
計画期間	平成	30	年度	～	令和	3	年度	交付期間	平成	30	年度	～	令和	3	年度

目標

- 大目標 交流と賑わいを生み出す都市拠点を形成する。
 - 目標1 交流人口の増加
 - 目標2 周辺地域への賑わいの波及

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

- 本市は、これまで12回の合併を重ねながら拡大し、市街地も人口増加とともに中心部から斜面地、郊外へと広がっていった。しかしながら、今後も人口減少、高齢化の進展が見込まれる中、持続可能な都市づくりが求められている。
- 将来の都市構造に掲げる「ネットワーク型コンパクトシティ長崎」の実現に向けて、長崎らしい「集約(コンパクト)と連携(ネットワーク)」の都市づくりを推進し、市民にとって安全・安心で快適な暮らしが続けられる都市に再構築していくため、高次な都市機能の維持・増進、長崎らしい安全・安心で快適な暮らしの提供、公共交通ネットワークの保持などを基本的な方針とした施策に取り組んでいる。
- 本地区を含む中心市街地においては、「陸の玄関口」である長崎駅周辺の整備を進めており、「海の玄関口」である松が枝地区周辺においても整備に向けた取り組みが進められている。また、交流拠点施設の整備や商業集積地における市街地再開発事業の推進など、高次な都市機能の集積や都市の賑わいと活力の創出を図っている。
- 公的不動産の活用策として、老朽化した県、市庁舎等の中心市街地内での移転建て替えに併せて、その跡地へ必要となる都市機能増進施設の立地を検討する。また、都市機能を誘導する際に、公共施設マネジメントによる公共施設の適正配置や余剰地の有効活用などについて連携・調整を図り、公共施設の統廃合で生じた空き施設や空き家活用を検討することや遊休不動産を活用した都市機能増進施設の整備や複合化を検討することなどにより、都市機能の強化及び拡散防止に向け、公共不動産の有効活用を図っていく。

まちづくりの経緯及び現況

- 現在の長崎駅周辺は、一部にホテルや商業施設の立地が見られるものの、駅の西側には車両基地やトラックヤードが存在するなど、都心部にもかかわらず広大な低未利用地が広がっている。また、駅から二次交通への乗換えについては、一部バリエーション化されておらず、乗り場が分かりにくいなど、多くの課題を抱えている。
- そのような状況の中、長崎駅周辺では今後6年間で再整備を進めることとしており、国の事業である九州新幹線西九州ルート建設計画、長崎県の事業であるJR長崎本線連続立体交差事業、長崎市の事業である長崎駅周辺土地区画整理事業が相互に関連しながら進められている。
- 当該地区内において新長崎警察署、県営バス新長崎ターミナルが、当該地区に隣接する魚市跡地においては新長崎県庁舎や県警察本部庁舎が建設されるなど、重要な都市基盤整備が相次いで実施されている。
- 長崎の経済4団体、長崎大学、長崎県、長崎市のトップで組織される「長崎サミット」において、「交流人口の拡大を増やすための重要な要素として交流拠点施設が不十分」であることから、官民一体となり施設整備の検討に取り組むことを確認したことを契機とし、現在、新長崎駅の隣接地において、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図ることを目的として、学会や会議、地域住民が交流できるイベントなどを開催できる交流拠点施設を整備することを検討している。
- 長崎市が地方の一都市として埋没することなく、持続可能な都市であり続けるために、これら大型事業が相互に連携を図り、交流人口の拡大、及び周辺地域への賑わいの波及によるまち全体の活性化を目指しまちづくりを進めている。

課題

- 長崎駅西側に広大な鉄道、貨物用地が広がっており、現在有効活用されていないため、土地利用の転換を図り、長崎の陸の玄関口にふさわしい都市拠点を形成する必要がある。
- 現在の駅前交通広場は狭隘で、バス・タクシー・一般車など様々な交通の輻輳が生じているため、交通広場の機能分担を図る必要がある。
- 国道上や駅前広場内にバス停が分散しており、利用者にとってわかりづらいため、バス停の集約や誘導板の設置により二次交通への乗換え利便性向上を図る必要がある。
- 市・県民及び観光客等に対する様々な情報を総合的に発信する機能が不十分であるため、観光案内板や観光センター等の設置により情報発信機能を強化する必要がある。
- 歩行者が安全に安心して歩行できる空間を整備し、区域内及び周辺地域への回遊性を向上する必要がある。
- 地区西側に整備される交流拠点施設など、新たに整備される施設の利用を促進し、生み出される賑わいを周辺地域に波及させるために、長崎駅周辺土地区画整理事業区域内に整備される道路と一体となった道路を整備することにより、駅東側に存する幹線道路とのアクセス向上を図る必要がある。

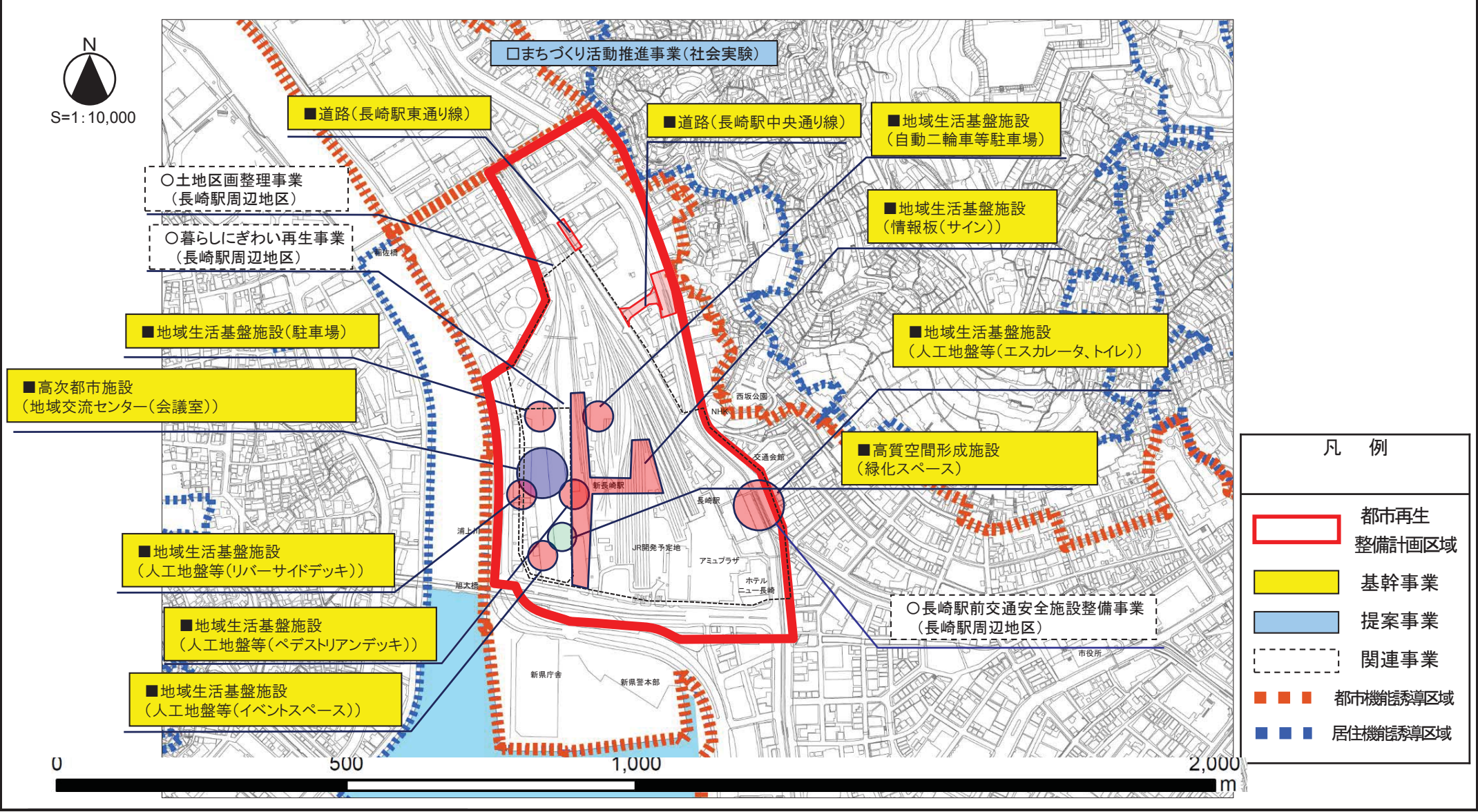
将来ビジョン(中長期)

- 「長崎市総合計画」では、「まちが交流拠点としての機能が整い、国内外から集まった人で賑わっている」ことを目指した「交流拠点としての機能を高める」ということが基本施策として位置づけられおり、長崎駅周辺において新幹線等の広域交通機能の魅力強化や交流拠点施設の整備などを基本方針としている。その中で、個別施策としては「5年後に目指す姿」として「まちが交流のための都市機能を備えている」ことを掲げており、そのための事業展開に「長崎駅周辺土地区画整理事業」が含まれる。
- 「長崎市都市計画マスタープラン」では、「都心部におけるにぎわいと活力のある計画的な地区づくり」という基本目標を掲げ、当該地区においては「九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)の建設や、JR長崎本線連続立体交差事業を促進するとともに、これらと一体となった長崎駅周辺土地区画整理事業により、市街地の再整備を促進します」と示されている。
- 「長崎駅周辺まちづくり基本計画」においては、①「交流」の歴史を未来へ引き継ぐにぎわいのあるまちづくりとして「交流とにぎわいの都市拠点を形成する」、②円滑な移動を支え、回遊性をもたらすまちづくりとして「広域交通及び市内交通の結節点を形成する」、③都心地域の拠点間が連携し、都市全体の持続的発展を図るまちづくりとして「既存市街地との連携を図るまちを形成する」、④長崎の大景観に溶け込み、周辺の歴史資産と調和が図られたまちづくりとして「長崎の個性と調和する美しい都市景観を形成する」、また、⑤水と緑につつまれた、低炭素型で持続可能なまちづくりとして「ゆとりとやすらぎのある安全・安心なまちを形成する」の5つの基本方針が示されている。

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【交流と賑わいを生み出す都市拠点の整備】(立地適正化計画P149(1)①「中心市街地活性化による都市の賑わいと活力の創出」施策関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な交流と賑わいを生み出す出島メッセ長崎の整備や、JR長崎本線連続立体交差事業による市街地の分断の解消及び九州新幹線西九州ルートへの整備による交流人口の増加に併せて、陸の玄関口となる長崎駅周辺において、交流と賑わいを生み出す都市拠点を形成する。 ・交流人口の拡大に備え、長崎駅周辺において道路整備を行い、安全で快適な交通環境を確保する。 	<p>○道路(長崎駅中央通り線、長崎駅東通り線)・・・基幹事業</p> <p>○地域生活基盤施設 (イベントスペース、駐車場、自動二輪車等駐車場、サイン、人工地盤等(ペDESTリアンデッキ、リバーサイドデッキ))・・・基幹事業</p> <p>○高質空間形成施設(緑化スペース)・・・基幹事業</p> <p>○高次都市施設 (地域交流センター(会議室))・・・基幹事業</p> <p>○まちづくり活動推進事業(社会実験)・・・提案事業</p> <p>関連事業</p> <p>○長崎駅周辺地区暮らし・にぎわい再生事業</p> <p>○長崎駅周辺土地区画整理事業</p>
<p>【賑わいを波及させる都市基盤の形成】(立地適正化計画P149(1)①「中心市街地活性化による都市の賑わいと活力の創出」施策関連)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該地区で創出された賑わいを周辺地域へと波及させるため、交通結節機能の強化のための交通施設整備や電停のバリアフリー化、また、歩行者動線や案内板等の整備による回遊性の向上により、周辺地域と連携を図り、長崎市全体の活性化を目指す。 	<p>○地域生活基盤施設 (人工地盤等(ペDESTリアンデッキ、エスカレータ、トイレ))・・・基幹事業</p> <p>○高質空間形成施設(サイン)・・・基幹事業</p> <p>○まちづくり活動推進事業(社会実験)・・・提案事業</p> <p>関連事業</p> <p>○長崎駅周辺地区暮らし・にぎわい再生事業</p> <p>○長崎駅周辺土地区画整理事業</p> <p>○長崎駅前交通安全施設整備事業</p>
その他	

長崎駅周辺地区(長崎県長崎市)整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	大目標 交流と賑わいを生み出す都市拠点を形成する。	代表的な指標	歩行者通行量 (人/日)	1,780 (H28年度)	→	1,870 (R3年度)
	目標1 交流人口の増加		利用者数 (人/年)	0 (H28年度)	→	100,000 (R4年度)
	目標2 周辺地域への賑わいの波及		長崎駅前電停一日平均乗降客数 (人/日)	6,700 (H28年度)		6,700 (R4年度)



凡 例	
	都市再生整備計画区域
	基幹事業
	提案事業
	関連事業
	都市機能誘導区域
	居住機能誘導区域